

早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 2月分

【2月の概要】

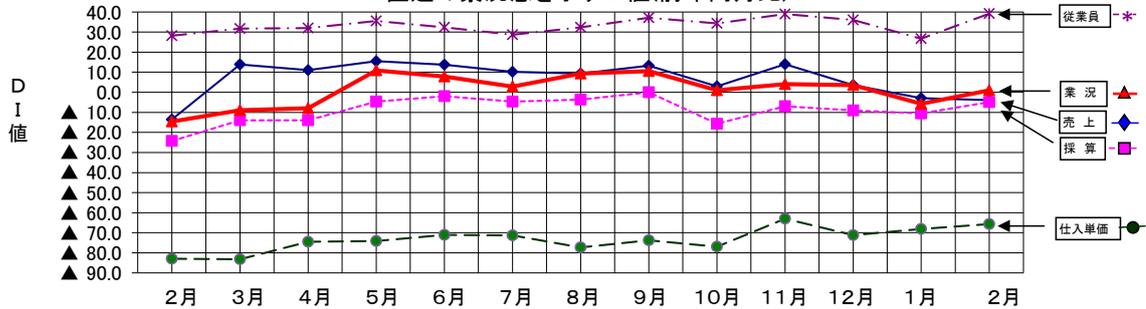
原材料高や人手不足に苦しむ声が圧倒的 一部で震災特需あるも、観光産業を中心に打撃大きく

直近の景況感を示すDI値は、「従業員」で12.5ポイントと大幅に上昇し、人手不足感が高まっている。一方で、「業況」は6.7ポイント好転し、プラス水準に持ち直した。先行き見通しを示すDI値は前月比で大幅な変動はないが、人手不足感は4.0ポイント上昇している。

寄せられたコメントでは、引き続き原材料の高騰や人手不足に苦しむ声が圧倒的に多く、一部で地震による特需が発生している一方、旅館等のキャンセル、人出の減少、風評被害等マイナス要因が大きい。価格転嫁や賃金アップへの対応も充分ではない状況が読み取れる。

あらゆる経営資源をフル活用しながら、政府の支援策をはじめ震災復興関連の動きを注視していく必要がある。

直近の景況感を示すDI値(前年同月比)



【直近の景況感を示すDI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合) ※従業員=(不足)-(過剰)
(Diffusion Index の略)

	2023年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2024年 2月
売上	▲13.6	13.9	11.0	▲15.5	13.7	10.2	9.3	13.3	2.9	14.0	3.6	▲2.9	▲3.9
採算	▲24.3	▲13.9	▲14.0	▲4.6	▲2.0	▲4.6	▲3.7	0.0	▲15.7	▲7.0	▲9.0	▲10.5	▲4.9
業況	▲14.6	▲8.9	▲8.0	10.9	7.8	2.8	9.3	10.5	1.0	4.0	3.6	▲5.7	▲1.0
仕入単価	▲83.0	▲83.2	▲74.5	▲74.1	▲71.1	▲71.3	▲77.3	▲73.8	▲77.0	▲63.0	▲71.2	▲68.1	▲65.7
従業員	28.2	31.7	32.0	35.5	32.4	28.7	32.4	37.1	34.3	39.0	36.0	26.7	39.2

- ・マイナス幅が減少したDI値：採算5.6ポイント、仕入単価2.4ポイント
- ・マイナスからプラスに転じたDI値：業況6.7ポイント
- ・マイナス幅が増加したDI値：売上▲1.0ポイント
- ・プラス幅が増加したDI値：従業員12.5ポイント（人手不足局面へ）

【向こう3か月間の先行き見通しを示すDI】

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
12月	▲2.7	▲9.0	▲6.3	▲40.5	36.0
1月	10.5	1.9	5.7	▲38.1	33.3
2月	9.8	3.9	8.8	▲39.2	37.3

- ・見通しが改善したDI値：採算2.0ポイント、業況3.1ポイント
- ・見通しが悪化したDI値：売上▲0.7ポイント、仕入単価▲1.1ポイント、従業員4.0ポイント（人手不足局面へ）

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	建築リフォーム	能登半島地震の影響で住宅の間合せが増えているが、原材料高騰の影響で業況は芳しくない。
	設備工事	地震の復旧工事が特需となり、1~3月期の減少分を多少はカバーできた。
製造業	印刷	2024年問題を心配している。流通システムの変化で様々な影響が出始めている。
	鋼材	鋼材の一部値上げが予定されており、販売価格への転嫁を含め留意が必要。
卸売業	建設資材	原材料高騰による仕入単価の急激な値上げに加え、出荷時の運賃の値上げも予定されている。
	青果	地震による自粛ムードで、旅館・ホテル等の宿泊キャンセルや、一部商品の売上減で苦戦している。
小売業	雑貨	地震以降、県外の来店客が減少し、土産品等の売上が減少し、風評被害も出ているようだ。
サービス業	看板	受注はあるも、人手不足で苦勞している。価格転嫁や賃金アップも難しい。□
	タクシー	地震の影響からか夜の人出が落ち込んでいる。原材料高騰に追い付かず、乗務員の離職も激しい。
	技術サービス	インボイス制度・電帳法の開始で現場、管理部門とも工数が増え、対応に苦慮している。